

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社ハーベストライフ		
事業所名	グループホームみのり(2ユニット共通)		
所在地	三島市南二日町650-1		
自己評価作成日	令和6年 2月 22日	評価結果市町村受理日	令和6年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和6年 3月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①接遇に関しては、目線を合わせて、ですます調の敬意ある言葉かけを心がけております。認知症の専門職として、その人を中心とした支援を考えていけるよう指導を行っております。②職員の指導環境も整っており、技術指導担当を配置し、マンツーマンにて数ヶ月間指導を行い毎日評価表を通してやりとりを行っています。③終末期のケアを行っています。きめ細やかな状態観察を行うために記録用紙を変更したり、体位変換の時間、ポジショニングの可視化などを行い、苦痛の緩和を心がけております。④事業所理念を大切にしており、新人、既存の職員含め意識を向けるため各所で可視化し意識付けの取り組みを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念から職員一人ひとりが支援目標を立てており、定期的に意識調査を行い達成出来ているのか確認を行っている。接遇や介護技術の研修に参加し業務の中で周知や指導を行いケア向上に努めている。利用者一人ひとりの思いを汲み取り、生活環境を整え居心地よく過ごせるように担当制をとっており、利用者へ寄り添い気づきが増やせるように、コミュニケーションを図り支援に繋げている。退所時にはホームでの生活をアルバムにして渡している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

両ユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、達成のための目標を立て、ホール内などに掲示している。会議の時などには唱和を行い自身でつくった目標を大切に出来ていると思います。4ヶ月に一度自己評価を取っている。	理念を掲示して会議の時唱和をしている。事業所内で毎年重視する理念を選んで目標を立てており、職員一人ひとりが目標に対しての支援目標を宣言して、4か月ごとに意識調査を行い、事業所全体で達成の有無を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェの開催をおこなっている。今年から、コロナで開催できなかった納涼祭を法人内で2回開催し、大盛況の開催となった。	年4回認知症カフェで講演や体操を開催したり、啓発のイベントに参加し地域住民との交流を深めている。コロナが緩和され納涼祭にも出掛けることができ、今後は町内のお祭りの活動にも参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若年性認知症の受け入れを行っている。ケア会議の参加や、市町村とアルツハイマー月刊の飾り付けや、ヨーカドーの職員に認知症の方の対応の仕方の講習なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を実施し民生委員、利用者ご家族の方、地域包括支援センターの参加があり、施設の取り組みを報告し意見をいただいている。	二か月に一度会議を開催しており、事業所の状況や行事の報告をしている。コロナ禍で面会ができなかったことから意見があり、状況をみて対応できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	若年性認知症の受け入れを行っている。ケア会議の参加。市町村とアルツハイマー月刊の飾り付けや、ヨーカドーの職員に認知症の方の対応の仕方の講習なども行っている。	市役所、地域包括支援センターから若年性認知症の相談がありボランティアで受け入れるなどの対応を行っている。運営会議議事録を届ける際に、報告や相談をして良い関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言。3ヶ月に一度、身体拘束・及び虐待防止委員会の開催を実施。3原則のようけん、家族・主治医に相談した拘束・ほんとうにクラスターリスクがある、パンデミックがおきるような事態が無い限りは身体拘束はありません	二か月に一回委員会を開催し、マニュアルから注意喚起の項目を会議で話し合い確認しており、意識調査も行っている。年一回、法人内の研修があり職員全員が参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ宣言。3ヶ月に一度、身体拘束・及び虐待防止委員会の開催を実施。3原則のようけん、家族・主治医に相談した拘束・ほんとうにクラスターリスクがある、パンデミックがおきるような事態が無い限りは身体拘束はありません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の説明や情報提供を必要に応じて家族への説明には用いるが、職員は学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	2時間くらいの時間でゆっくりと、重要事項説明書、運営規程を説明し、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。要望・クレームを報告書にて報告し、管理者会議にて共有し、運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置しているが、電話や面会の時に直接意見や要望を伺っている。家族から洗濯物の入れ違いがあったとの意見があり、担当制にして一か月に二回は日用品や衣類確認をおこなうなど反映に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	キャリアパスを用いて、個人面談の実施。職員が自由記載できる(意見ノート)と言う物を各階に設置し、やりとりが出来る環境をつくっている。	意見ノートを活用し職員がそれぞれ自由に記述をし意見や考えを伝えている。検討したいことはアンケートに記入し会議で話し合いの場を設け取り組んでいる。夜間何度も起きてしまう利用者に対して話し合った結果、訪室する時間やわかるものの提示をしケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時、職員の状況をみて評価を代表へ伝えている。家庭の状況などにも、寄り添える範囲で労働条件や勤務形態に対抗している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、役職者・次世代を対象に勉強会の開催や、スキルアップに向けた資格取得・認知症の研修に送り出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、他事業所での情報交換や相談などができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて丁寧に要望を聞く機会を設けている。本人の支援については、本人・家族へ同意を得た上で変更を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとについては、必要時時間を作り話を聞く機会(対面・電話)にて対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が入居見学に来られた時点で、他のサービスが適応であると思われる場合は、説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	受ける側、する側にならない関係をできるよう心がけている。親しさと馴れ合いの区別はするようになっている。生活者としての役割をもっていた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入った後も、本人の理解者は家族であるため情報をもらえる関係性、面会や外泊など関わる時間を大切に頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの、ケーキ屋・いきつけの美容室などには、職員・家族の協力を得て、本人が足を運べるよう支援させて頂いている。	入所前からの行きつけの美容院には家族が同行し、また職員と一緒に近所のケーキ屋に出掛けることもある。親せきや兄弟などの面会についてはコロナの状況を見ながら検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の入居の際は、配席への配慮、生活に慣れるまでは様子を記録にて共有し、ご利用者の同士のやりとりがうまくいかない様子が見られたら双方の話に耳を傾けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在経験はないが必要時、相談時に行っていくようにする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、モニタリングを元に、本人のやりたいことを聞き出し支援しています各職員に担当の利用者様を付ける事で、見る目を増やし、一人一人にたいし、気がつける目を増やすように心がけています。利用者様の生活の様子の変化や、一ヶ月の様子を書いてもらうことで、どんなことに気づけたのかを、報告してもらっています	利用者ごとに担当を決め、会話の中から希望等を聞くように努めている。その人の様子や気になっている事など他の職員からも様子を聞きとり記録に残し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任ケアマネ・家族から、情報提供頂き、本人とのやりとりを得て、可能な範囲内で本人らしさ、継続的な趣向に添えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活ペースの要望に添い、できる限り対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に主訴を聞き、プランに反映させているが、職員個々からその人のためにとる思いはプランに反映できていない。	記録をもとに会議等でモニタリングを行っている。家族より電話や面会時に様子を伝えながら意見を聞くように努めている。家族より運動をさせてほしいとの意向があり、身体状況を把握した上で家族に説明をして、訪問マッサージを取り入れる計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録、気づきから実践的な支援方法の変更などは行っているが、介護計画の見直しまでは行っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時の身体状況を観察し、いつまでも同じケアの継続にならないようにその人を見れるよう指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動美容室、相談員の訪問など外部の関わりや協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じた、受診対応や、往診医への連絡調整を行っている。主治医・もしくは訪問看護にすぐに相談できる体勢は整っている。 車椅子のご利用者の送迎支援は困難なご家族の場合はこちらで送迎させてもらっている。 ICも必要に応じて、参加している。	入所時に説明をしてかかりつけ医を決定し、受診の時は家族に付き添いをお願いしている。受診時に必要があれば職員が対応し、かかりつけ医と連携を図る様に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が入る場合には、看護師の指示に従い、支援を行っている。職員間でも共有しやすいように記録用紙の変更。看護師指示をまとめた書類を作成しスムーズなやりとりができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、関係医療機関と情報提供・情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りの考え方の確認を行い、主治医から家族へ、ご本人がターミナル期であると診断を受けた場合には、今後の方針を相談しおみとりができるよう支援している。	入所時に説明をおこない、家族、本人の意向を確認している。身体状況に低下がみられたときはその都度説明をし、終末期になった時は医師より説明していただき意向を再度確認、相談しながらケアの方法について記録用紙に記入し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローを作成し、入職時・更新時には伝達を行っているが、実践的な訓練は日常的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に、2回の防災訓練実施。日中・夜間を想定し行っている。	年二回防災訓練を、夜間想定で実施している。風水害の時はハザードマップを利用して避難方法を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている 言葉掛けに関しては、人生の先輩として敬意を持って接するようにと日々、周知しております法人の理念でも大きくうたっている部分ではあります。まだまだ、粗が目立つところはありますが、一人一人が、だいぶ意識出来ることは出来ているかと思えます	尊厳についての法人研修に参加している。業務の中で言葉遣いやプライバシーに注意する点があれば、改善点を説明しケア向上に努めている。職員一人ひとりが言いやすい環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人への言葉掛けに関しては、伺いを立てるよう心がけております。意思疎通が困難なご利用者には、「自分だったらどうか」をもとに話し合いを行っている。方向性の誘導は必要		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の、集団生活と言う中では、ご協力頂いている場面はあるが、例・食事の提供時間など衛生管理マニュアルから2時間。食べる食べないは日常生活範囲内で許容。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や、誕生日会など、本人が特別な時の服装選びを行っている。基本的には本人の自由に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、調理スタッフが作っている。お菓子作りを一緒に作ったりしている。 定期的に、近隣のお弁当や、テイクアウトでお好みの食事をとってもらったりしている。 誕生日のご利用者と一緒に好きな物を伺い、お寿司を担当の職員と食べに行ったりしている。	おやつのは時はドリンクメニューから選ぶ事ができ、誕生日には近くのケーキ屋で好きな物を選んでもらっている。時にはテイクアウトで好きなものを頼む事もある。意思を伝えることが困難な場合は家族に伺い提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量・水分量の記録をとり、経過をみている。できるだけ、自力摂取ができるように周辺環境へ配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の有する能力に応じて、食後3回の歯磨きをして頂いている。連携医の先生が終末期になるとこまめに治療に入っていただけ環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援は、トイレでの排泄を大切にしようと思いがけています。 個人の尊厳に配慮し、トイレで排泄をするという能力を損なわないように、日々支援をしています。	トイレで排泄することに努め、毎回トイレに座っていただき自立に向けた支援を心掛けている。パッド等は見えないように職員が持参し、排泄時にはプライバシーに配慮している。言葉で伝えることが困難な利用者は、しぐさや排泄パターンから誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の大きさ、食事形態などを個々に主治医に相談し対応している。未排便のマイナスカウントを実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回の、指定日に入浴している。無理な入浴はせず日を変えたり、誘う時間・人を変えて行っている。同性支援の実現は出来てはいますが、羞恥心への配慮の意識は常に心がけています。入浴剤・個人のシャンプー石鹸使用	入浴剤やせっけん等本人が好むものを使用している。入浴に拒否があるときは日時や対応する職員を変更して対応している。現在は午前に入浴しているが、今後は午後入浴、回数増ができたかと思っている。	入浴回数や時間を決めるのではなく、利用者の希望されたときに入浴ができるよう、利用者中心の支援が行えることに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思決定が出来る方は、個人に委ね、意思の表示が難しい方は、本人の状態を見て休んで頂いている。夜間眠れない状況があれば、近くで話を聞いたり、不安解消ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は行っているが、職員全員が薬の内容や副作用についてまでは理解が出来ていない状況。薬の準備から服薬確認までをwチェックで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今も、継続的に有している趣味や能力は生かせるように支援をいっている。誕生日会にピアノ演奏、詩吟。お酒が好きな方で、ノンアルコールビールの提供など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩であたり近くの、自販機にジュースをかいにいたり、馴染みの、お店のケーキを買いに行ったり、本人の行きたい場所を把握した上で、職員とマンツーマンの外出が当たり前のようにできる環境というのを目指しております。	天気の良い日は散歩したり、職員と一緒に買い物に出掛けている。家族より外出や外泊等の希望があったときは感染症の状況を見て対応をしている。今後はドライブでの外出も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品は基本持たないように、契約時依頼しているが、本人が欲しいもの要望あれば家族へ相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や、手紙のやりとりは要望があれば対応。携帯を使う方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活でおおく過ごしている、ホールでは、それぞれがおちついて生活が出来るように心がけています。食事の時はテレビは静止画のBGMをかけたか、昼夜の夜の間の照明の明るさ設定や場所に迷わないための表札や、職員の言葉掛けの大きさには気をつけています	ホールに設置されている電子ピアノで音楽を奏でる方や、写真が貼られておりシンプルな雰囲気大切にしている。コルクボードには季節が感じられる装飾品を貼付され会話を楽しめる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるよう支援を実施している。不安感が強くあるときなどは、場所を変えるなど本人の状況に合わせて行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	引っ越し(入居)の際は、馴染みの家具を使っていたりして頂いています。環境の変化を少しでも無く過ごして頂けるように、気をつけています。基本的に、燃えやすい物でなければ制限無く持ち込んで頂いています。	入居前からの使い慣れた物や好みの物を持参いただくことにより生活のしずらさが軽減でき、生活感が出るような工夫に心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書く場所に名称の可視化を行い、判断しやすい環境作りをしている。自費にはなるが、家族にも協力頂き、福祉用具のレンタルを行っている。		